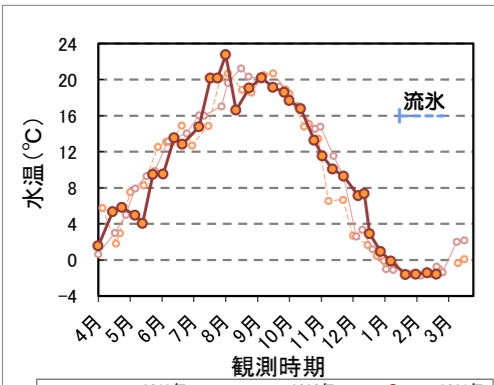


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報(2022年2月)

海洋環境データ

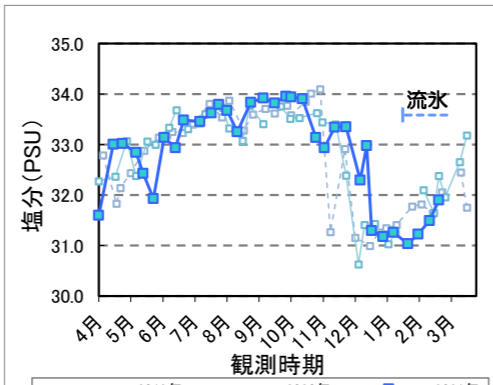
※観測：紋別市

◎水温 (0~9mまでの平均値)



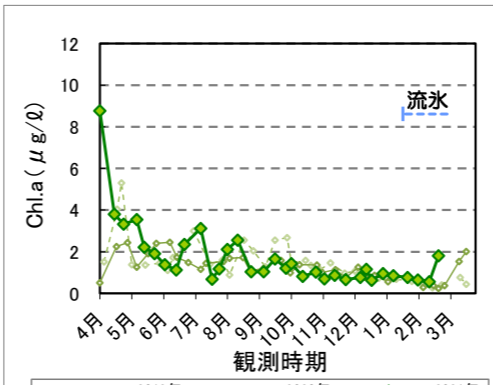
※2022年1月20日：流水初日、1月21日：流水接岸初日 発表

◎塩分 (0~9mまでの平均値)



※2022年1月20日：流水初日、1月21日：流水接岸初日 発表

◎Chl. a (0~9mまでの平均値)

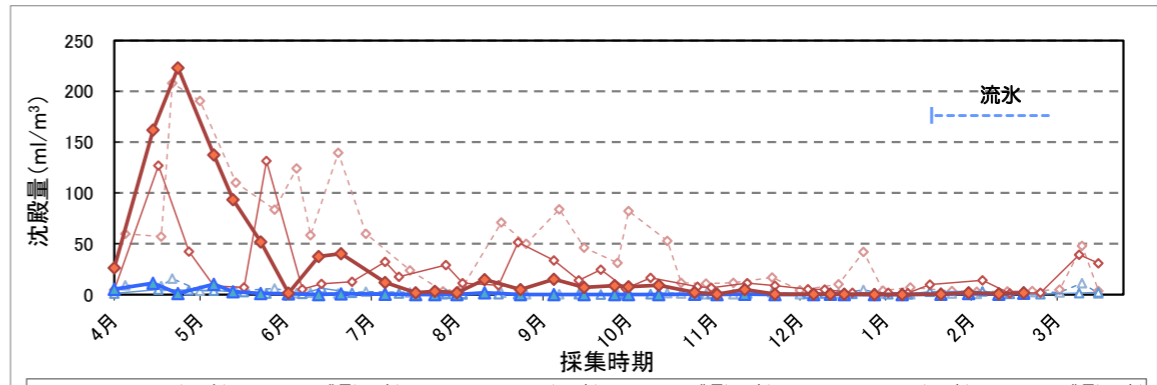


※2022年1月20日：流水初日、1月21日：流水接岸初日 発表

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



※2022年1月20日：流水初日、1月21日：流水接岸初日 発表

概要

Table with 4 columns: Date (2月4日, 2月15日, 2月24日) and rows for Average Temperature, Salinity, Chl.a, Sedimentation, and Main Species. Includes detailed species lists for NORPAC and Beppu nets.

出現量の多かった種類

Four images of plankton species with their names and descriptions: Pseudocalanus newmani, Acartia longiremis, Eurytemora herdmani, and Copepoda (nauplius).

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+出現、++やや多い、+++多い、++++かなり多い、+++++極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)、砂質分(主に細かい砂)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献：

List of references including works by 千原・村野 (1997), Wilson (1966), Pinchuk (2006), 林 (2006), 西・加藤 (2002), 古賀 (1960), 大越・野村 (1990), and 大塚・上田・岩淵・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野 (2007).